営農型太陽光発電所「ソーラーシェアリング」が全国で普及

2012年から電力の固定買取制度が始まり、太陽光発電を中心に再生可能エネルギーが広がっています。通常農地で太陽光発電を設置する場合、設置する農地全てを農地以外の地目に転用することが必要であり、農振地域や1級農地などは転用することは不可能でした。しかし2013年の農水省の通達により、支柱部分を一時転用することで、多くの農地で営農を継続しながら太陽光発電をすることが可能になりました。これは営農型太陽光発電「ソーラーシェアリング」と呼ばれ、全国で1000件を超える実績があり増加中です。さらに農水省は、今年5月に農家の担い手等が営農型太陽光発電を実施する場合、これまで一時転用を3年毎に必要だった手続きを10年に延長しました。農水省から公表されている資料には「作物の販売収入に加え、売電による収入が継続的に得られるため、農業者の収入拡大による農業経営のさらなる規模拡大や6次産業化の推進が期待」されるとしています。このように、ソーラーシェアリングには単に農地を利用して太陽光発電事業ができるというのではなく、農業を自然エネルギー事業によって支える、活性化させていくという役割が期待されています。

写真①

全国で栽培実績のある作物

大豆 / ほうれん草 / 生姜 / サツマイモ / 大麦 / 大根 / 長ネギ / スイカ / きゅうり / じゃがいも / そば / イチジク / チンゲン菜 / ブルーベリー / みょうが / 里芋 / 水稲 / カブ / ブロッコリー / ぶどう / かぼちゃ / ゆず / しいたけ / 小松菜 / なす / 牧草 / さかき / キャベツ

ソーラーシェアリングの条件

農業

◎農業振興地区、第 1 種農地でも可能
◎農業委員会の一時転用許可が必要
◎一時転用は 3 年又は 10 年
（担い手、耕作放棄地で実施する場合等は 10 年）
◎地域平均収量の 80％の収量を確保
◎著しい品質劣化のないこと
◎簡易な構造で容易に撤去できること
◎20 年間農業を継続すること

発電

◎事業認定の権利を取得
◎高圧線の電柱が比較的近くにあること
◎導入路があること
◎事業性が見込める工事費であること

太陽の光を農業とエネルギー生産でシェア
営農型太陽光発電所を地域デザインに活かす！

パネル下でも収量を確保

写真①②は南相馬市内でソーラーシェアリングを運営している農家の発電所です。水田ですが牧草を栽培し、その上部で太陽光パネルを設置しています。3000㎡の農地に1500㎡の設置面積が必要になります。牧草の収量も基準をクリアし、安定的な発電により農業経営も順調です。遮光率（パネル影の割合）30%程度であれば多くの作物で通常通り栽培することが全国の事例から報告されています。作物毎に光飽和点があり、一定以上の光を受けてもそれ以上の光を利用することはできません。太陽光パネルと農作物で太陽の光を分け合って「シェア」しているのです。パネルは3m以上の高さに設置し、杭の幅も6～4.5mあるので、トラクター等の作業機も支障なく農作業することができます。

農業経営の新しい柱

太陽光の売電単価は現在18円/ｋｗｈと固定買取制度が始まった当初の半分以下になっており、多くの方から、これから始めるにはもう遅いですよねと聞かれます。買取単価と比例して太陽光パネルや部材価格も下がっているので、依然とさほど変わらない収益を上げることができます。それでも現在の単価を維持するには10月25日までに東北電力に申請する必要があります。

農作物価格が低迷する状況で農地の耕作放棄地や後継者不足にどの農村も悩んでいます。農業生産を柱に、エネルギー生産も加えていけば、農業経営の安定につながります。集落単位で数カ所のソーラーシェアリングを運営すれば、新たに農業従事者を雇用することも可能です。特に福島県は原発事故以降、若者の県外へ流出が毎年5000人を超えており、新しい雇用創出が求められています。農業、農村の活性化のためにもエネルギー生産は農村に適した産業です。

平成 26 年福島県耕地面積	144,500	ha
上記の 1％	1,445	ha
空シェア 97kw 必要面積	0.2	ha
設置可能数	7,225	箇所
県内投資額	11,198,750	万円
97kw 売上（@18 円）	1,336,625	万円
97kw 所得（@18 円）	325,125	万円
500 万給与での雇用数	650	人
発電設備容量	700,825	kw
発電量	744,175,00	kwh
世帯数カバー（3500kwｈ）	0	戸

写真②

農民連フラッシュ flash

いざ、仙台高裁へ!

10月1日、台風一過で晴天となった仙台市において、生業訴訟第1陣控訴審の第1回期日が開かれました。期日に先立って集会とデモ行進を行い、原告や全国の支援者300名が仙台市の繁華街で「再稼働反対!」のコールを響かせました。

話して、学んで、食べて、温泉も

9月12日、「根本会長と語ろう」をメインに郡山地方農民連女性部総会が磐梯熱海温泉で開かれました。参加者の一番の関心毎を出し合い、根本会長は「国際家族農業＋10」や「持続可能な農業」の主体として女性の力を大いに発揮してほしいと結びました。ブッフェ形式のランチ、温泉も楽しみました。

NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

若き農業者のつぶやき　のーと
せいねんぶ農人

須賀川地区も梨の最盛期がやってきました。青年部員の安藤優太くんも毎日忙しそうです。今年は夏の水不足の影響で幸水は育ちが悪かったようですが、豊水は、なりがよかったようです。どうにかひと安心です　by土井